

第2 【事業の状況】

1 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当第3四半期連結会計期間における生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりです。

事業の種類別セグメントの名称		当第3四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)
自動車事業	日本	1,088,890 台
	北米	208,180
	欧州	98,827
	アジア	249,862
	その他	105,583
	計	1,751,342
その他の事業	住宅事業	1,463 戸

(注) 1 「自動車事業」における生産実績は、車両（新車）生産台数を示しています。

2 「自動車事業」における「その他」は、中南米、オセアニア、アフリカからなります。

(2) 受注状況

当社および連結製造子会社は、国内販売店、海外販売店等からの受注状況、最近の販売実績および販売見込等の情報を基礎として、見込生産を行っています。

(3) 販売実績

当第3四半期連結会計期間における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりです。

事業の種類別セグメントの名称		当第3四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)	
		数量	金額(百万円)
自動車事業	車両	1,837,845 台	3,574,892
	海外生産用部品	—	80,502
	部品	—	393,210
	その他	—	259,663
	計	—	4,308,267
金融事業	—	—	337,739
その他の事業	住宅事業	1,501 戸	39,384
	情報通信事業	—	11,640
	その他	—	105,813
	計	—	156,837
合計	—	—	4,802,843

- (注) 1 主要な相手先別の販売実績については、当該販売実績の総販売実績に対する割合が100分の10未満であるため、主要な相手先別の販売実績および当該販売実績の総販売実績に対する割合の記載を省略しています。
- 2 上記の金額には、消費税等は含まれていません。
- 3 「自動車事業」における「車両」の数量は、車両（新車）販売台数を示しています。
- 4 金額は外部顧客に対する売上高を示しています。

前述の当第3四半期連結会計期間における「自動車事業」の販売数量を、仕向地別に示すと、次のとおりです。

事業の種類別セグメントの名称		当第3四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)	
		数量	金額(百万円)
自動車事業	日本	464,927 台	
	北米	521,422	
	欧州	234,589	
	アジア	221,949	
	その他	394,958	
	計	1,837,845	

- (注) 1 上記仕向地別販売数量は、車両（新車）販売台数を示しています。
- 2 「自動車事業」における「その他」は、中南米、オセアニア、アフリカ、中近東ほかからなります。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3 【財政状態及び経営成績の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結会計期間における日本、海外を合わせた自動車の連結販売台数は、183万8千台と、前年同四半期連結会計期間に比べて44万3千台（19.4%）の減少となりました。日本での販売台数については、46万5千台と、前年同四半期連結会計期間に比べて7万6千台（14.1%）の減少となりました。一方、海外においても、137万3千台と、前年同四半期連結会計期間に比べて36万7千台（21.1%）の減少となりました。

当第3四半期連結会計期間の業績については、売上高は4兆8,028億円と、前年同四半期連結会計期間に比べて1兆9,071億円（28.4%）の減収となり、営業利益は前年同四半期連結会計期間に比べて9,621億円減少し、3,606億円の損失となりました。営業利益の減少要因としては、販売面での影響が5,600億円、為替変動の影響が2,500億円、諸経費の増加ほか1,521億円ありました。また、税金等調整前四半期純利益は前年同四半期連結会計期間に比べて9,348億円減少し、2,821億円の損失、四半期純利益は前年同四半期連結会計期間に比べて6,233億円減少し、1,647億円の損失となりました。

事業の種類別セグメントの業績は、次のとおりです。

自動車事業

売上高は4兆3,111億円と、前年同四半期連結会計期間に比べて1兆8,693億円（30.2%）の減収となり、営業利益は前年同四半期連結会計期間に比べて8,005億円減少し、2,327億円の損失となりました。営業利益の減少は、生産および販売台数の減少、為替変動の影響ならびに諸経費の増加ほかによるものです。

金融事業

売上高は3,466億円と、前年同四半期連結会計期間に比べて451億円（11.5%）の減収となり、営業利益は前年同四半期連結会計期間に比べて1,448億円減少し、1,239億円の損失となりました。営業利益の減少は、融資残高は順調に増加したものの、販売金融子会社において、米国財務会計基準書第133号（第138号等による修正を含む）に基づく金利スワップ取引などの時価評価による評価損が増加したこと、貸倒関連費用および残価損失関連費用が増加したことなどによるものです。

その他の事業

売上高は2,943億円と、前年同四半期連結会計期間に比べて393億円（11.8%）の減収となり、営業利益は0億円と、前年同四半期連結会計期間に比べて118億円（99.9%）の減益となりました。

所在地別セグメントの業績は、次のとおりです。

日本

売上高は3兆141億円と、前年同四半期連結会計期間に比べて9,707億円（24.4%）の減収となり、営業利益は前年同四半期連結会計期間に比べて5,536億円減少し、1,642億円の損失となりました。営業利益の減少は、生産および輸出台数の減少、為替変動の影響ならびに諸経費の増加ほかによるものです。

北米

売上高は1兆3,390億円と、前年同四半期連結会計期間に比べて1兆308億円（43.5%）の減収となり、営業利益は前年同四半期連結会計期間に比べて3,110億円減少し、2,474億円の損失となりました。営業利益の減少は、生産および販売台数の減少、米国の販売金融子会社における米国財務会計基準書第133号（第138号等による修正を含む）に基づく金利スワップ取引などの時価評価による評価損の増加、貸倒関連費用および残価損失関連費用が増加したことなどによるものです。

欧州

売上高は6,605億円と、前年同四半期連結会計期間に比べて3,226億円（32.8%）の減収となり、営業利益は前年同四半期連結会計期間に比べて774億円減少し、434億円の損失となりました。営業利益の減少は、生産および販売台数が減少したことなどによるものです。

アジア

売上高は6,839億円と、前年同四半期連結会計期間に比べて1,273億円（15.7%）の減収となり、営業利益は405億円と、前年同四半期連結会計期間に比べて238億円（37.0%）の減益となりました。営業利益の減益は、販売台数が減少したことなどによるものです。

その他の地域（中南米、オセアニア、アフリカ）

売上高は3,815億円と、前年同四半期連結会計期間に比べて2,597億円（40.5%）の減収となり、営業利益は335億円と、前年同四半期連結会計期間に比べて164億円（32.7%）の減益となりました。営業利益の減益は、生産および販売台数が減少したことなどによるものです。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間のキャッシュ・フローの状況については、営業活動からのキャッシュ・フローは、四半期純利益が1,647億円の損失となったことなどから、差引3,865億円の資金の減少となりました。また、投資活動からのキャッシュ・フローは、有価証券及び投資有価証券の売却及び満期償還4,576億円などにより、差引152億円の資金の増加となりました。財務活動からのキャッシュ・フローは、短期借入債務の増加7,802億円などにより、差引4,267億円の資金の増加となりました。これらの増減に加え、為替換算差額を合わせますと、当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、1兆7,295億円と、前四半期連結会計期間末に比べて1,211億円（6.5%）減少しました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

金融危機の深刻化や、株式・為替市場の大幅な変動の影響などにより、世界経済は急速に悪化し、特に自動車業界では市場が急激に縮小するなど、厳しい環境に直面しています。

この緊急事態に対処するため、当社は緊急収益改善委員会を設置し、短期的な収益確保を目指した取り組みを進めています。

また、各地域のお客様のニーズの変化に対応した新たな商品ラインアップの構築、将来の成長の鍵を握る環境・エネルギーなどの技術分野へのリソース重点投入、需要変動に迅速に対応できる生産体制の構築、総費用の低減などの取り組みにより、構造改革を進め、しなやかで強靱な企業体質を構築していきます。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結会計期間における研究開発費は、2,154億円です。